

【08. 3期中間決算説明資料】(要約版)

ますます高まる世界のエネルギー需要を取り込む
—供給能力拡大に向け、設備投資は計画通り進行中—

株式会社日本製鋼所
代表取締役社長 永田昌久

2007年11月21日

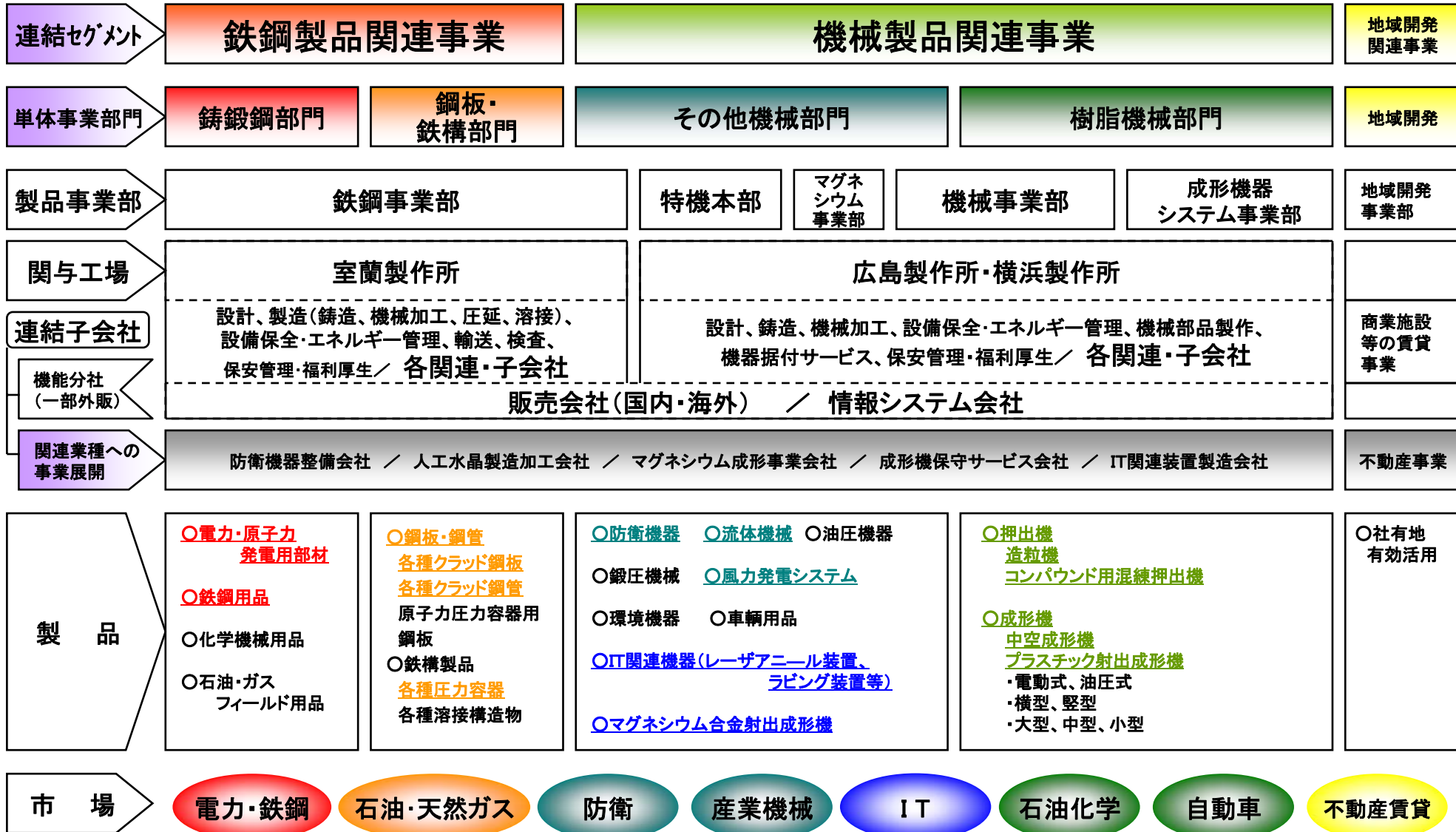
ホームページURL: <http://www.jsw.co.jp>

お問い合わせ先: 経営管理部

部長 渡邊 久郎

TEL: 03-5745-2001 FAX: 03-5745-2025

事業部門の構成と当社製品群



第1部 08. 3期中間決算及び通期予想

(1)08. 3期中間決算及び通期予想

1. 連結損益の状況

(単位:億円)

	07.3中間 実績 (A)	08.3中間 当初計画	08.3中間 実績 (B)	前年 同期比 (B)/(A)	07.3 実績 (C)	08.3通期 当初計画	08.3通期 予想 (D)	前期比 (D)/(C)
売上高	985	1,040	1,103	112 %	2,071	2,170	2,180	105 %
連単倍率	1.16 倍	1.12 倍	1.17 倍	—	1.17 倍	1.16 倍	1.15 倍	— 倍
営業利益 (率)	101 10.3 %	128 12.3 %	167 15.1 %	165 % —	246 11.9 %	260 12.0 %	285 13.1 %	115 % —
経常利益	100	123	160	160 %	234	250	270	115 %
当期純利益	57	64	95	167 %	125	130	150	120 %
一株当たり 当期純利益	15.35 円	17.24 円	25.72 円	167 %	33.71 円	35.01 円	40.40 円	120 %

2. 単体損益の状況

(単位:億円)

	07.3中間 実績 (A)	08.3中間 当初計画	08.3中間 実績 (B)	前年 同期比 (B)/(A)	07.3 実績 (C)	08.3通期 当初計画	08.3通期 予想 (D)	前期比 (D)/(C)
売上高	847	930	944	111 %	1,774	1,870	1,900	107 %
営業利益 (率)	95 11.2 %	120 12.9 %	152 16.1 %	160 % —	228 12.8 %	240 12.8 %	265 13.9 %	116 % —
経常利益	98	120	149	152 %	219	235	255	116 %
当期純利益	59	65	86	146 %	122	125	140	115 %
一株当たり 当期純利益	16.13 円	17.51 円	23.29 円	144 %	32.95 円	33.67 円	37.71 円	114 %
記念配当	— 円	— 円	— 円	— 円	3.0 円	— 円	— 円	△ 3.0 円
一株当たり 配当金	— 円	3.5 円	4.5 円	4.5 円	6.0 円	7.0 円	9.0 円	3.0 円

注) 当初計画は平成19年5月24日の決算説明会時を示す。
通期予想は11/12中間決算短信の値。

当期純利益の伸張が見込まれるため、
年間普通配当額を前年度6円から9円に増額

(2)セグメント別連結売上高・営業利益の状況

増産効果・製品構成是正・コスト低減により原料・燃料の高騰を吸収し増益を見込む、直近の原材料高騰や減価償却方法変更の影響は下期偏重

(単位:億円)

		07.3 中間実績 (A)	08.3 中間計画	08.3 中間実績 (B)	前年同期比 (%) (B)/(A)	07.3 通期実績 (C)	08.3 当初計画	08.3 通期予想 (D)	前期比 (%) (D)/(C)
鉄鋼製品	売上高	381	450	470	123	763	890	895	117
	営業利益	63	92	127	202	140	169	190	136
機械製品	売上高	582	580	624	107	1,278	1,260	1,266	99
	営業利益	59	64	65	110	154	150	148	96
地域開発	売上高	22	10	9	41	30	20	19	63
	営業利益	6	3	3	50	9	7	7	78
消去又は配分不能費用		△ 27	△ 31	△ 28	104	△ 56	△ 66	△ 61	109
合計	売上高	985	1,040	1,103	112	2,071	2,170	2,180	105
	営業利益	101	128	167	165	247	260	285	115

中間期のレビュー

- ①鉄鋼製品関連事業は、需要構成の変化により収益性の比較的低い電子用材料が急減したものの、発電プラント用部材、石油精製用圧力容器、クラッド鋼材・鋼管等の伸長により売上の減少をカバーするとともに、収益の改善にも寄与。
- ②機械製品関連事業は、防衛関連機器が減少するものの、樹脂製造・加工機械、プラスチック射出成形機等が売上を伸ばし、増産効果、生産性向上により営業利益は対前年比10%増。

下期のポイントと通期の見通し

- ①鉄鋼製品関連事業は、直近の原材料高騰や減価償却方法変更による負担増は下期より本格化するものの、増産効果・製品構成是正・コスト低減活動により、増加する負担の吸収を図る。電力・原子力用部材は前期比27%増、石油精製用圧力容器類は79%増、クラッド鋼板は18%増の見通し。なお、当下期からクウェート国営石油精製向け大型圧力容器の出荷が始まる。
- ②機械製品関連事業は、樹脂製造・加工、成形機は堅調に推移(通期売上高は前年同期比20%増)するも、IT関連機器の上期への前倒し、及び来期へのずれ込みのため、下期は前年同期比減少し、これに伴い通期は微減。

(3) 連結セグメント別の業績(売上高・営業利益)

生産効率の向上による工期短縮で売上増加

堅調な需要に支えられ継続的に増加が見込まれる

		07.3 中間実績 (A)	08.3 中間計画	08.3 中間実績 (B)	前年同期 比 (%)	07.3 通期実績 (C)	08.3 当初計画	08.3 通期予想 (D)	前期比 (%) (D)/(C)
鉄鋼 関連 製品	鑄鍛鋼部門	210	235	217	103	402	440	420	104
	鋼板・鉄構部門	153	200	220	144	332	410	440	133
	単体部門計	363	435	437	120	734	850	860	117
	連結会社他	18	15	33	183	29	40	35	121
	連結売上高	381	450	470	123	763	890	895	117
営業利益		63	92	127	202	140	169	190	136

		07.3 中間実績 (A)	08.3 中間計画	08.3 中間実績 (B)	前年同期 比 (%)	07.3 通期実績 (C)	08.3 当初計画	08.3 通期予想 (D)	前期比 (%) (D)/(C)	
機械 製品 関連	樹脂機械部門	259	330	344	133	547	620	663	121	
	その他機械部門	205	158	154	75	466	385	362	78	
	単体部門計	464	488	498	107	1,013	1,005	1,025	101	
	連結会社他	(IT関連)	38	30	48	126	103	105	94	91
		(その他)	80	62	78	98	162	150	147	91
	連結売上高	582	580	624	107	1,278	1,260	1,266	99	
営業利益		59	64	65	110	154	150	148	96	

新興市場国や産油国での需要増大で大幅に伸長

(4) セグメント別受注高

(単位: 億円)

	07.3 中間実績 (A)	08.3 中間計画	08.3 中間実績 (B)	前年同期比 (%) (B)/(A)	07.3 通期実績 (C)	08.3 当初計画	08.3 通期予想 (D)	前期比 (%) (D)/(C)
鉄鋼製品関連事業	603	555	714	118	1,027	1,000	1,100	107
機械製品関連事業	585	601	634	108	1,241	1,325	1,396	112
地域開発事業	11	10	9	82	19	20	19	100
合計	1,199	1,166	1,358	113	2,288	2,345	2,515	110

(5) 連結セグメント別の業績(受注高)

中国向け火力用部材、米国・韓国向け原子力用部材伸長が継続し大幅増加

上期ケミカルタンカー・海水淡水化向けのクラッド鋼板が大幅伸長、下期はパイプが入札の端境期

		07.3 中間実績 (A)	08.3 中間計画	08.3 中間実績 (B)	前年同期 比 (%)	07.3 通期実績 (C)	08.3 当初計画	08.3 通期予想 (D)	前期比 (%) (D)/(C)
鉄鋼 関連 製品	鋳鍛鋼部門	274	225	313	114	503	460	500	99
	鋼板・鉄構部門	311	300	369	119	494	500	565	114
	単体部門計	585	525	682	117	997	960	1,065	107
	連結会社他	18	30	32	178	30	40	35	117
	連結受注高	603	555	714	118	1,027	1,000	1,100	107

		07.3 中間実績 (A)	08.3 中間計画	08.3 中間実績 (B)	前年同期 比 (%)	07.3 通期実績 (C)	08.3 当初計画	08.3 通期予想 (D)	前期比 (%) (D)/(C)
機械 製品 関連	樹脂機械部門	270	328	404	150	577	630	715	124
	その他機械部門	207	147	97	47	429	425	435	101
	単体部門計	477	475	501	105	1,007	1,055	1,150	114
	連結会社他	108	126	133	123	234	271	246	105
	連結受注高	585	601	634	108	1,241	1,326	1,396	112

造粒機中心に大型受注が相次ぎ、加えて事業譲渡を受けたフィルムシート装置が大幅増加

液晶業界の減産と設備投資の抑制等により上期から下期にずれ込む

(6) 連結貸借対照表及び連結キャッシュフロー計算書

(単位:億円)

	07.3 中間実績 (A)	08.3 中間実績 (B)	対前年同期 増減 (B)-(A)	08.3 通期予想
流動資産	1,426	1,533	107	1,565
固定資産	758	832	74	850
資産合計	2,184	2,366	182	2,415

設備投資の増加が顕著で固定資産は増加

(単位:億円)

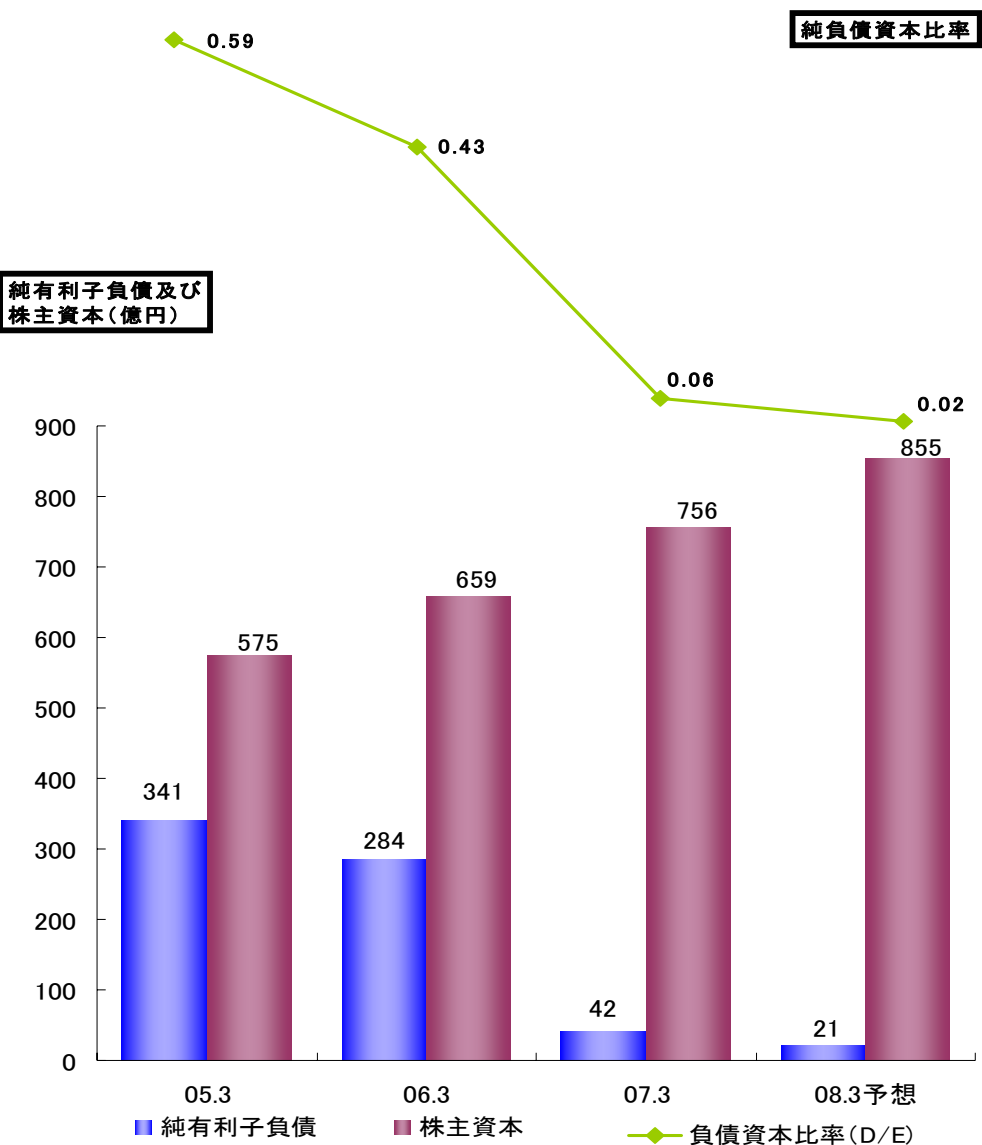
	07.3 中間実績 (C)	08.3 中間実績 (D)	対前年同期 増減 (D)-(C)	08.3 通期予想
流動負債	1,134	1,218	84	1,234
固定負債	370	330	△ 40	326
純資産	680	816	136	855
負債、純資産 合計	2,184	2,366	182	2,415

自己資本比率	32.4	34.4	2.0	35.4
1株当純資産	203.1	219.4	16.3	230.3

(単位:億円)

	07.3中間実績	08.3中間実績	07.3通期実績	08.3通期予想
営業活動 キャッシュフロー	156	138	356	196
投資活動 キャッシュフロー	△ 20	△ 32	△ 96	△ 110
計	136	106	259	86
財務活動 キャッシュフロー	△ 75	△ 69	△ 167	△ 100
現金及び現金同等物の 期末残高	243	312	274	260

(7) 財務体質の状況(純有利子負債・ROAの推移)(連結)



08. 3期末の予想有利子負債残高は前期比40億円減少し281億円を計画

08. 3期末の予想純負債資本比率は0.02倍となり大幅改善見込み

08. 3期末のROAは中計目標値8%以上を上回る11.4%を計画

	期末	05.3	06.3	07.3	08.3中間	08.3予想
キャッシュフロー対有利子負債比率(倍)		7.0	8.0	0.9	-	1.4
インタレストカバレッジレシオ(倍)		6.9	7.1	47.8	-	31.4
有利子負債EBITDA倍率(倍)		4.4	2.8	1.1	-	0.7

(単位:億円)

有利子負債(A)	510	469	321	285	281
現預金残高(B)	69	185	279	316	260
	169				
純有利子負債(A)-(B)	341	284	42	△ 30	21

(単位:%)

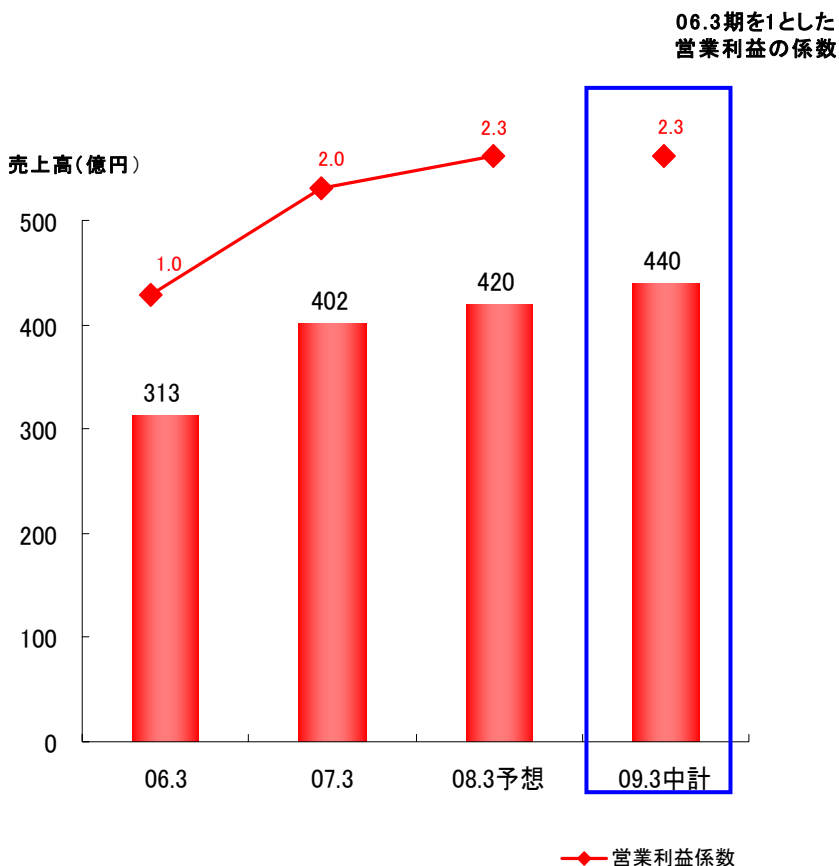
使用総資本経常利益率(ROA)	3.4	6.2	6.8	13.7	11.4
-----------------	-----	-----	-----	------	------

第2部 各事業部門の業況・見通し

(1) 鋳鍛鋼部門：電力・原子力の売上増加により利益は伸張

中計での取り組み

- ①火力・原子力発電用部材等のニッチトップ・オンリーワン技術戦略の展開によるシェア拡大
- ②需要環境に合わせた生産能力向上・効率化のための設備投資継続実施



08.3期状況

- 電力・原子力は08年3月当初計画に比し、19億円増加し324億円の売上見通し
→中国・米国の新設案件の活発な引き合い継続、確実な取り込みを図る
- 大型鉄鋼圧延用ロールは受注・売上とも好調

超大型厚板用ロールは10年先納期分の引き合いあり

増産・効率化の設備投資・減価償却方法変更による負担増加、原材料価格高止まりはあるものの、生産性の改善等により、08.3期の営業利益は07.3期比増加の見込み

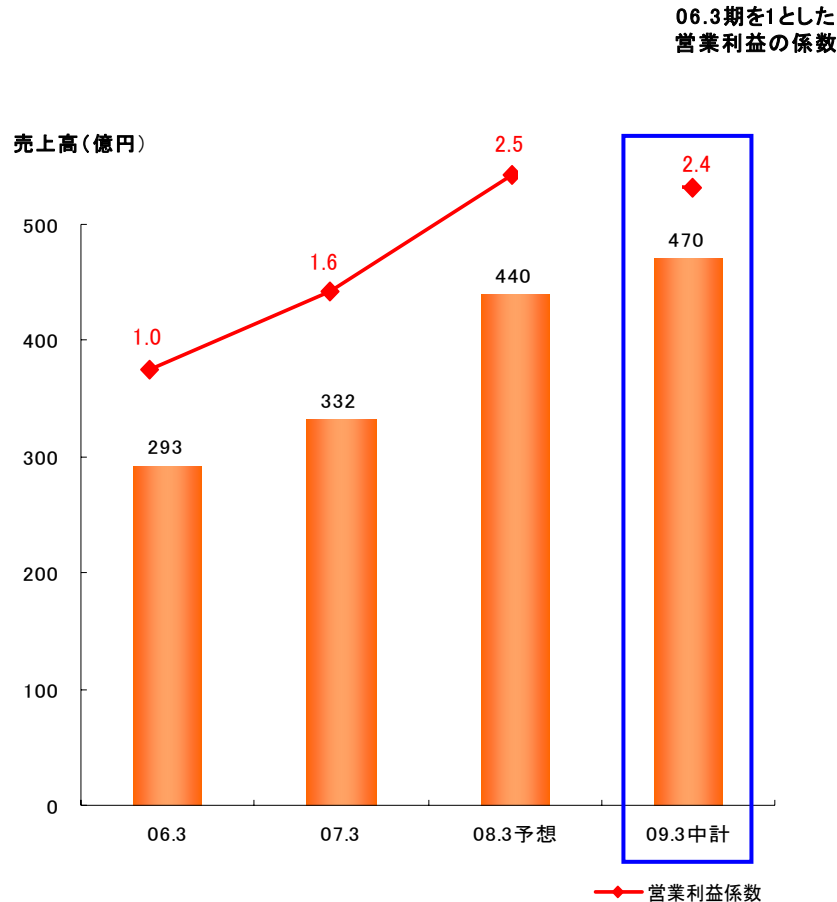
09.3期予想

- 中計に対し需要構造の変化により電子材料が急減
- 原材料・原油価格の高止まりのほか、設備投資負担増加がある
- 一方で米国・中国向け火力・原子力発電用部材は引き続き堅調
- 鉄鋼圧延用ロールは国内・アジアを中心に大型品の需要継続
- 生産性向上とコスト改善により中計計画値に対し営業利益増を目指す

(2) 鋼板・鉄構部門：エネルギー需要増大により利益伸長を継続

中計での取り組み

- ① 需要動向に即した製造ライン・プロセスの構築
- ② 設備投資の継続実施による生産能力向上・効率化の推進



08.3期状況

圧力容器

○原油高・原油使用量増加を背景とした製油所新設プロジェクトが継続→カナダ・ベネズエラ等、超重質油向け需要の一層の取り込み

クラッド鋼板・鋼管

- 中東での淡水化プラント用、北米・インドでの石化プラント用クラッド鋼板の需要は、高水準で推移
- エネルギー使用量の増加・構造変革に伴い、天然ガス田向け鋼管の需要は引き続き好調に推移

06.3期受注のクウェート向け大型案件の売上等、売上増加、生産性の改善、調達コストを反映した代価是正等もあり、08.3期の営業利益は07.3期比約60%以上増加の見込み

09.3期予想

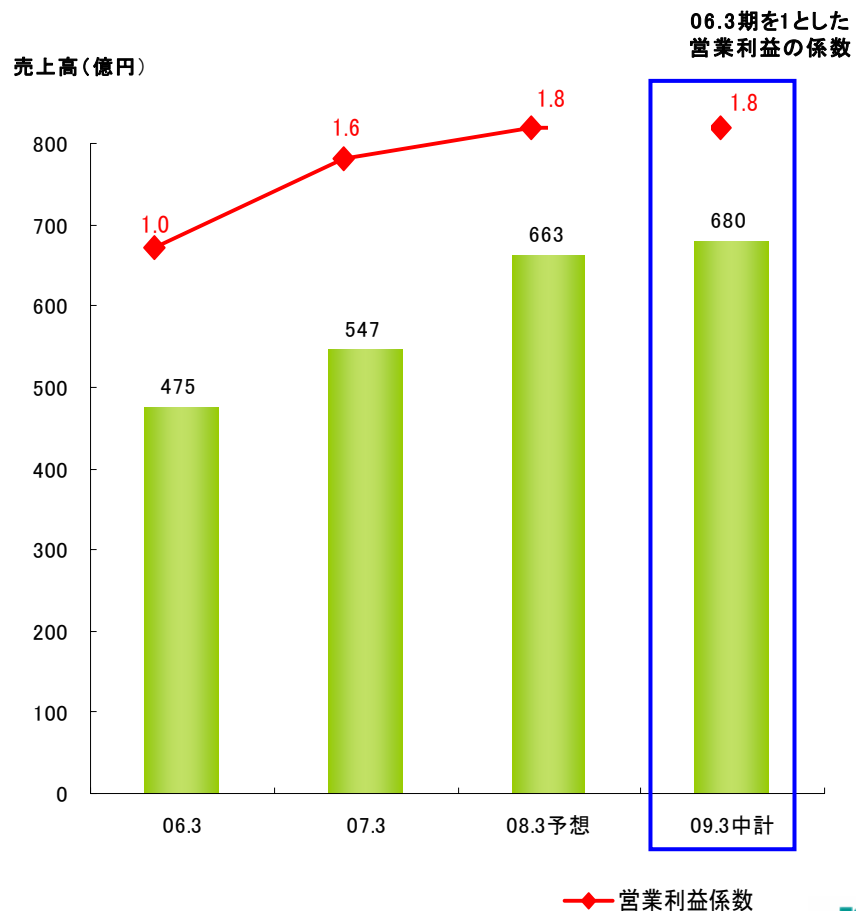
- 06.3期受注のクウェート向け大型案件売上の継続、超重質油向け圧力容器の需要継続
- 天然ガス田用鋼管、中東向け淡水化プラント用及び石化プラント用鋼板の需要は堅調を予想
- 売上と営業利益伸長を目指す

(3) 樹脂機械部門: 世界的な樹脂使用量の拡大を背景に

売上・利益の拡大を目指す

中計での取り組み

- ① 差別化技術の強化とJSWブランドの浸透
- ② アライアンスによる新規事業・新製品育成
- ③ 光学液晶フィルム分野の強化
- ④ 小型射出成形機市場の攻略



08.3期状況

成形機

- 日本国内では自動車関連分野で横ばい
- 携帯電話等OA通信分野を中心に小型・中型機の輸出需要が拡大し、下期売上高は上期より9億円増加し181億円、通期予想では当初計画を43億円上回る353億円の見通し

樹脂製造・加工機械

- 造粒機は中東・中国向けを中心に好調な需要環境が継続
- 事業買収したフィルムシート装置は受注倍増を見込む

調達品価格高騰、価格競争激化の影響を売上増加、生産性改善により吸収し、08.3期の営業利益は07.3期比15%以上増加の見込み

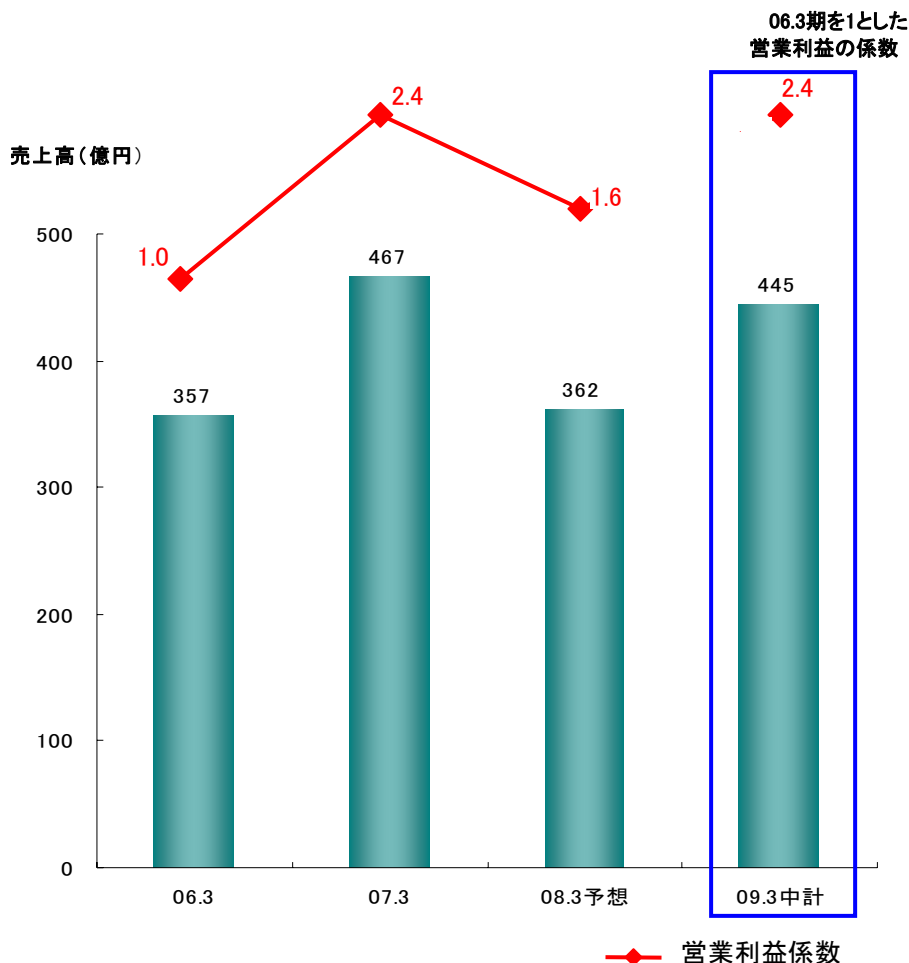
09.3期予想

- デジタル家電業界やOA通信分野の伸張により小型・中型機は増加、大型機は高水準を維持
- 造粒機は、中東・中国市場が引き続き堅調
- 08.3期のフィルムシート装置受注増により、09.3期以降売上拡大
→ 売上拡大、製造コスト削減に注力し、08.3期比増収増益を目指す

(4) その他機械部門：技術経営の推進により新規事業分野の伸長

中計での取り組み

- ①新製品・新事業の早期投入と戦力化
- ②戦略的アライアンスによる事業拡大
- ③応用製品・周辺製品開発による市場拡大



08.3期状況

IT関連機器

(レーザアニール装置)

- 中・小型ディスプレイ(携帯電話・デジタルカメラ)における高精細パネル生産は引き続き堅調
- 有機EL用途の量産化計画により大型設備投資が見込まれる

(マグネシウム合金射出成形機)

- 拡大するノート型パソコン分野で、主力機種外装筐体への採用拡大
- 技術支援強化・サービス体制整備を進め、顧客満足度の向上を図る

新規事業

- 自社技術による日本型風力発電機器の投入により、受注・売上ともに増加を見込む

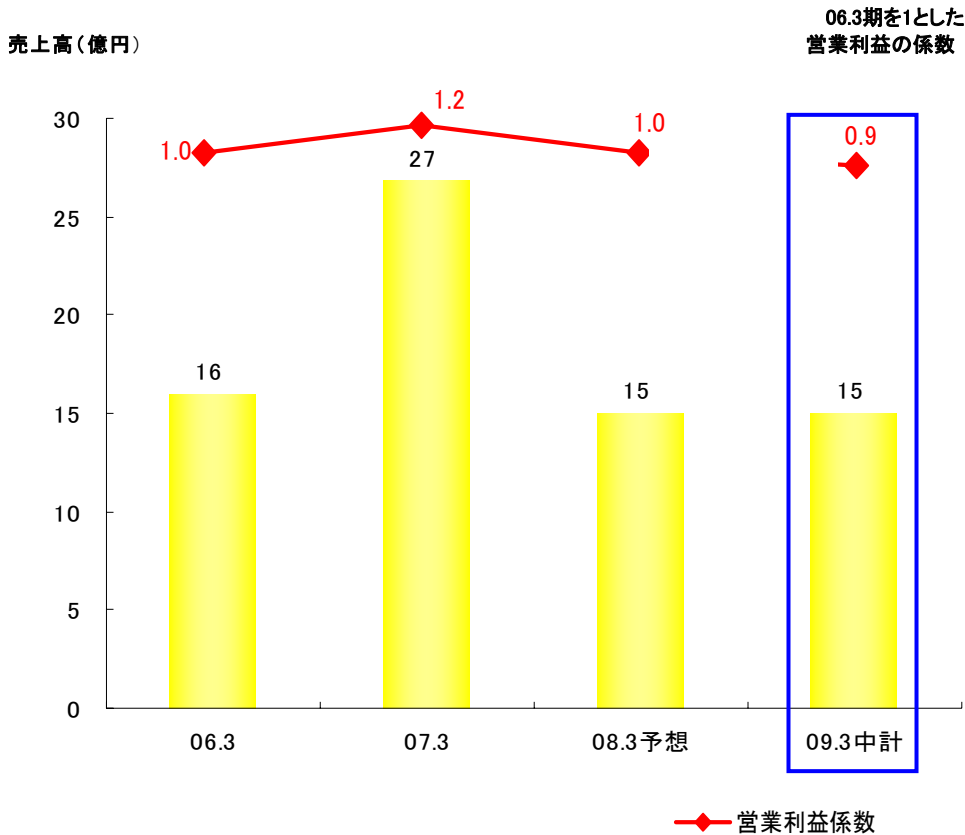


IT関連機器等の減少により、08.3期の営業利益は07.3期比26%程度減少の見込み

09.3期予想

- 引き続きノート型パソコン分野におけるマグネシウム部品適用の拡大を捉えた需要の掘り起こし
- 風力発電機器の業容拡大
当社機種を選定した補助金採択が進み売上増を見込む

(5) 地域開発事業部門: 社有資産の有効活用推進



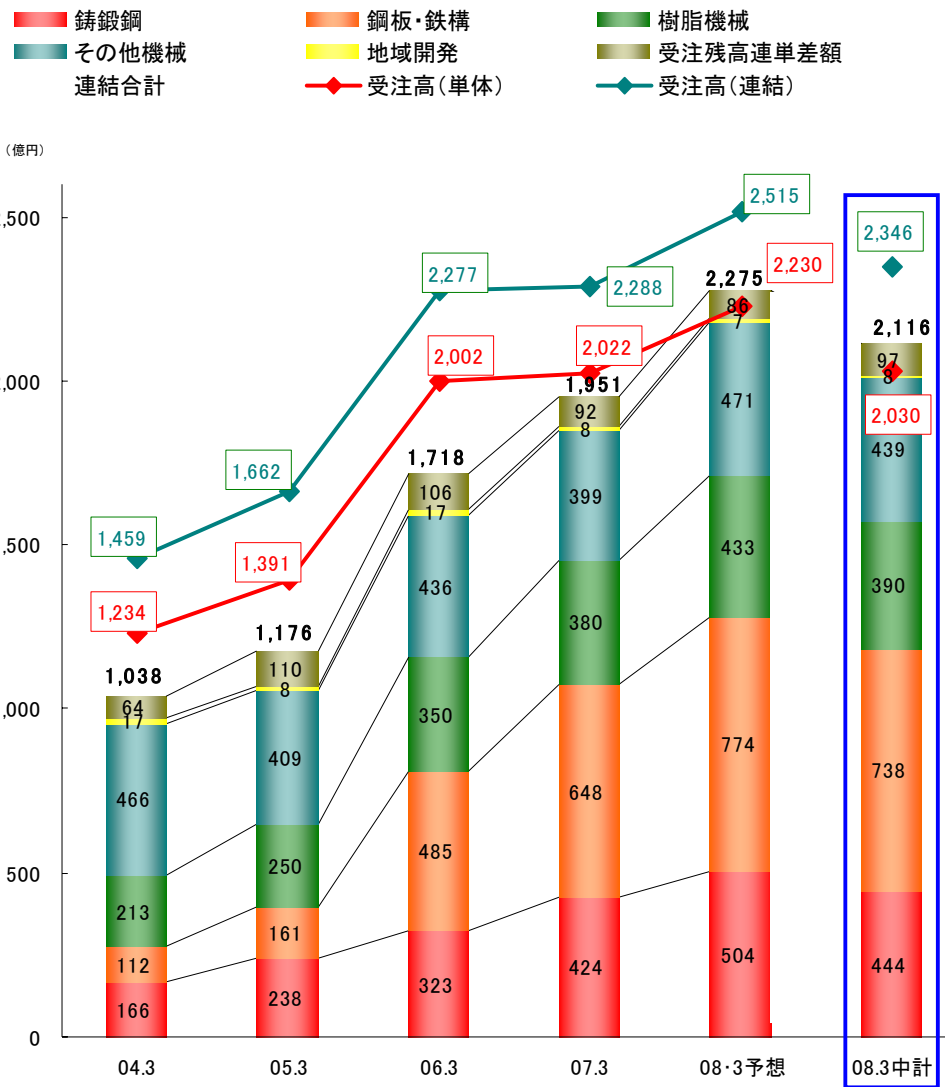
○既存賃貸事業の運営・管理業務のレベルアップ、他社との協業による営業力強化

→①安定的収益の確保
②キャッシュフローの創出



商業施設(北海道・室蘭弥生ショッピングセンター)

(6) 08. 3期の受注高・受注残高と09. 3期の傾向



08.3期状況

(受注高)

08.3期受注高の通期予想では対前年比10%の受注増を見込む

○ 鋳鍛鋼部門

発電用部材及び大型の鉄鋼圧延用ロールの需要は引き続き堅調

○ 鋼板・鉄構部門

圧力容器、クラッド鋼板・鋼管の需要増加

○ 樹脂機械部門

中国向けを中心に樹脂製造機械の受注が増加、射出成形機は国内自動車分野及びデジタル家電向けは堅調

○ その他機械部門

IT関連機器等は減少するものの、風力発電機器がプロジェクトの増加により伸長

(受注残)

○ 08.3期末残高予想は前期末に比し324億円増の2,275億円(前期末比17%増)を見込む

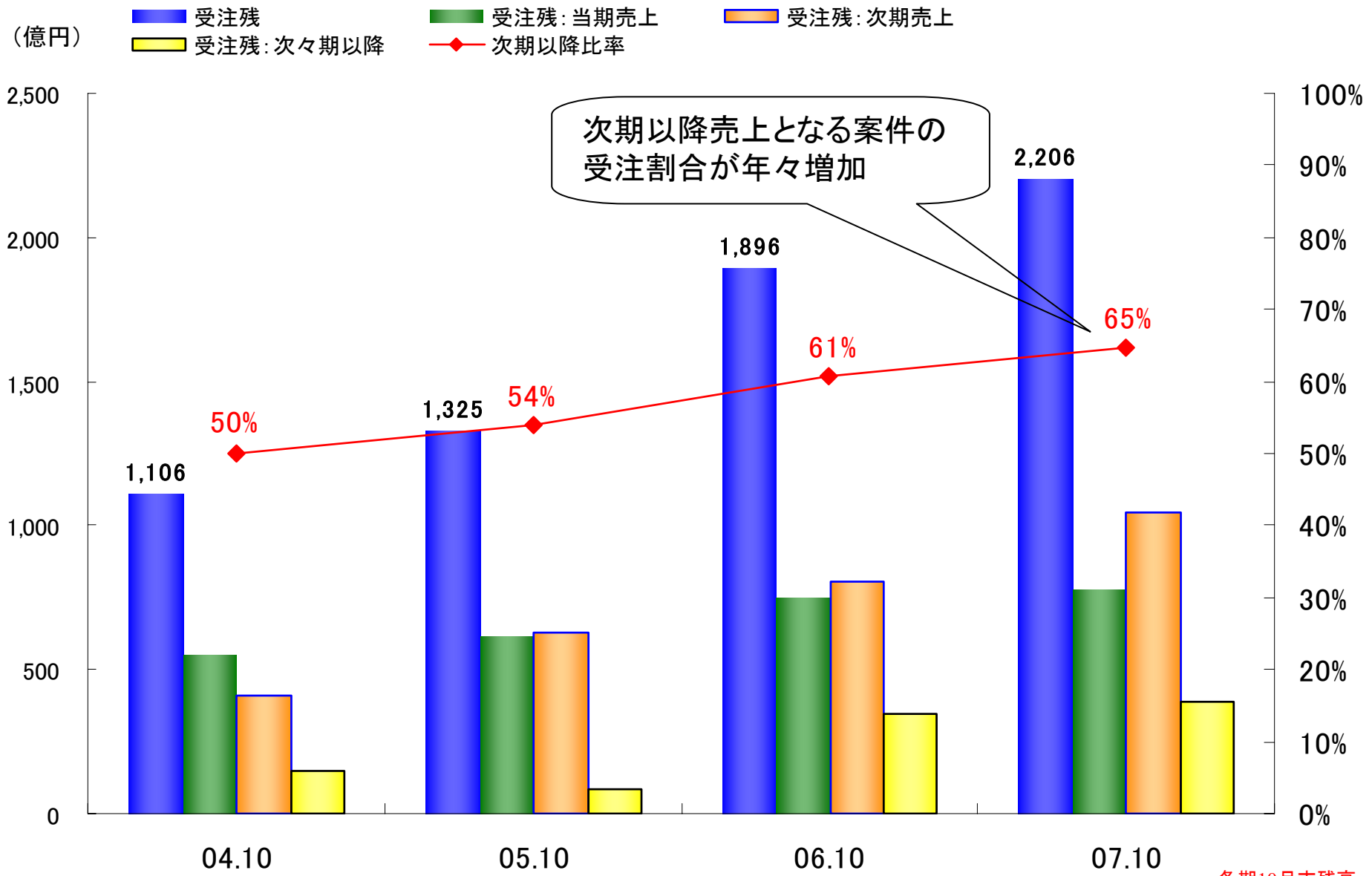
内訳: 鋳鍛鋼19%増、鋼板・鉄構19%増、樹脂機械14%増、その他機械18%増と、事業部門全体にバランスよく増加

09.3期予想

エネルギー関連部材、樹脂製造機械の需要環境は引き続き好調を見込む

→ 増産・効率化の設備投資を積極的に実施し更なる受注の上積み に注力

(7) 受注残高(単体)の売上展開



2008年3月期中間連結決算参考資料

(単位:百万円)

	03.3	04.3	05.3	06.3	07.3	08.3中間	08.3予想
経営成績							
売上高	134,268	136,309	158,274	173,353	207,138	110,393	218,000
営業利益	5,813	6,394	7,721	12,876	24,678	16,720	28,500
経常利益	3,000	4,558	6,210	11,770	23,459	16,075	27,000
当期純利益	831	2,000	3,284	6,586	12,515	9,548	15,000
一株当たり当期純利益	2.23	5.39	8.70	17.57	33.71	25.72	40.40
株主資本当期純利益率	1.6	3.7	5.7	10.7	17.7	-	18.6
売上高経常利益率	2.2	3.3	3.9	6.8	11.3	14.6	12.4
財政状態							
株主資本	50,880	54,540	57,461	65,853	75,621	81,457	85,500
株主資本比率	29.3	30.3	31.1	33.5	32.5	34.4	35.4
一株当たり株主資本	137.00	146.86	154.59	177.19	203.09	219.41	230.30
キャッシュフローの状況							
営業活動によるキャッシュフロー	9,928	8,232	7,291	5,854	35,630	13,829	19,600
投資活動によるキャッシュフロー	△1,888	△2,791	13,611	△6,534	△9,679	△3,203	△11,072
財務活動によるキャッシュフロー	△5,283	△5,959	△11,918	△5,307	△16,750	△6,916	△10,000
現金及び現金同等物期末残高	15,613	15,142	24,111	18,179	27,472	31,204	26,000